
私は勇者です。(大声で自信満々に)

miyajr

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私は勇者です。（大声で自信満々に）

【Nコード】

N9129Y

【作者名】

miyaji

【あらすじ】

魔法使いがいるなら勇者がいたっていいじゃない。

そんな日常。

（前書き）

「勇者！！降臨！！」

「……」

ここは次元世界の中心地ミッドチルダ。

数日前、ちょっとした次元震が起こり、
空飛ぶベッドやらと少し騒がしかったが、犯人も特定できずにしばらく平和な日々が続いている。

そしてここはとある住宅街…。

「私が勇者だ!!」

と、誰かがいつものようにが誇らしげに叫んでいた。

/ / / / / / / / / / / / / / / /

ここの住宅街は、本当に平和だ。

2年ほど前の通称「ゆりかご」事件でも全く被害は無く、とても平和だった。

ああ、私の紹介がまだだったな。私は管理局のただの警察官だ。ここの住宅街の交番で勤務している。

管理局も地上ではただの警察みたいなもんだ。
今日の朝も平和に過ごさ「私が勇者だ!!」・・・ああ...そうだったこいつがいたな...

あいつは本当に近所迷惑を考えない奴だな...

私は叫びがあつた所に直ぐに出動した。

タツクルがましてきやがった。

「見つけたぞブ」「ジュンちゃん!!」「イブゲラァッ!!」

そしていつもの様に気絶。

.....

「ジュンちゃん!!」

私はジュンちゃんへと飛び込んだ。

「ジュンちゃん会いたかったよー!!…?ジュンちゃん?」

どうやらジュンちゃんには寝てしまった様だ、

あの一瞬で寝てしまうなんて私に会えて会えて安心したのかな？

「しょうがないな。ジュンちゃんは。」

私はゆっくりジュンちゃんを起こしてベンチに寝かせ、頭を膝にのせた。

平和だな。

「ふあ
:
Z
Z
Z
:
」

勇者は寝るのも速かった。

II

そして私は何故か顔面と後頭部に柔らかさを感じ目を覚ました。

何故か膝枕をされていて、そしてさらに目の前にTAWAWAに育った二つのアレ、

なんとか叫びを抑えた自分を褒めてあげたい。

なんとかするりと抜け出して奴の隣に座った。

勇者…か。

これがまだガキとかだったら笑えるのにな。

もうこいつも15歳、いい加減卒業したらと思う。

職場でもそれが原因でこんな住宅街の交番にに流されてきたっていうのに。

こいつの名前は明日香＝ブレイブ

名前からもつ勇者っぽい。

実は俺と同じ管理局員。しかも、魔力はSSクラスでエース級。

しかも美人。

なのになんでこんな住宅街のか交番に勤務してるのかというところ…。

それは、やっぱりこいつが勇者だったからだ。

ここは実質魔法使いが支配する国だ。

そんな所にいきなり自分を勇者と疑わないような奴が入れば異質と見られるだろう。それだけならまだ良かった。

こいつはかなりカンが鋭かった。

勇者のカンなのかは知らないが、今では表向きに報じられている管理局の闇の部分、それに関わってる局員にほとんど気づいていたらしい。

そんな彼女をこのままほっておけるはずが無く、彼女はここに流された。

そしてさらにその時彼女が交換条件として俺を連れて行くなんて事を言い出した。

たった一人の局員で彼女を動かせるなら彼らも願ったり叶ったりだろう。

よって私は彼女と共にここの交番に勤務する様になった。

普通勇者とセットは魔法使いが定石だったのに…。

こいつにはホント迷惑をかけられてばっかである。

「つにゅ…」

ん。起きたか？

「あー！ジュンちゃん起きたんだね！！良かった〜」

ただどこいつの笑顔を見てるとなんか憎めない。

まあ、こんな生活も悪くは無いかな？と思う今日この頃です。

「それにしてもジュンちゃん、走りながら寝ちやうなんて本当にねばすけさんだな〜」

「お前のせいだろー！！」

「うん。私に会えて安心したんでしょー！！」

……こいつ本当はただのバカなんじゃないか？

（後書き）

騙されたな!!

勇者は女だったのさ!!

今回は結構スラスラいけました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9129y/>

私は勇者です。(大声で自信満々に)

2011年11月27日11時55分発行